

【低学年ブロック】

『じどう車くらべ』

日時 令和7年11月20日
学年・組 第1学年1組(35名)

『じどう車ずかんをつくろう』

討議の柱

- 本時の学習において、ロイロノートをどのように活用できるか。

成果

- テンポよくロイロノートを使うことができた。
- 共有ノートを使うことで、同じものをみんなで見るのができた。同じものを子どもたちが見ているので教員も指示がしやすかった。
- ICTを使う経験を積み重ねていくと2年、3年でさらに有効に使えるようになっていくと感じた。みんなが参加しやすいツールであった。
- ロイロノートのペンの色を一人ずつわけていたのが分かりやすかった。

課題

- ロイロノートの立ち位置が操作メインになってしまっていた。思考を深めるためのツールにしなければならない。
- 話し合う活動に到達していないグループもあった。
- 使い方のルールを明確にしておかないとケンカにつながってしまう。
- 共有ノートでチェックするには、難しさがあつた。誤字のチェックより文字の形を訂正したりOKサインを消し合つて遊びに走つてしまつたりしていた。時間をあたえれば与えるほどあそびに寄つていくグループがあるため、時間配分やそれぞれの役割が重要になってくる。難しいように思う。

今後に向けて

- 推敲の場面で共有ノートを使うのであれば、みんなが同じものを見ながら書くのは1人にしておく。意見はみんなで言い合う。代表者が書くようにしておくと、目の前の原稿がかわるので直すべき箇所に気づくことができる。
- 事前に書いたものを次の時間で共有する際に共有ノートを活用することもできる。
- 1年生からの積み重ねも大事なので、学年でICTの目標をたてて学校で系統立てる必要がある。
- どのようなツールを使うことが必要なのか見定めるために教材分析を行い、子どもたちの発達段階にあった手立てを選び取っていくことが大事になっていく。どの方法が効果的で目の前の子どもに必要なのか吟味していかなければならない。

2年生「紙コップ花火の作り方」「おもちゃの作り方をせつめいしよう」の授業について

2年「紙コップ花火の作り方」「おもちゃの作り方をせつめいしよう」

成果

- 「紙コップ花火の作り方」では、作り方の説明を学んで実際に作る活動をした。それを踏まえて「おもちゃ作りをせつめいしよう」では、班で選んだ紙コップのおもちゃを作って、その説明文を書く活動を取り入れた。子どもたちは自分たちが作ったおもちゃの説明文を書くので、書きやすい様子であった。
- この単元では、順序を表す言葉が大切なので、子どもたちが文章を書くときに順序を表す言葉を示した。そのポイントに着目させるために、教師の間違った例文を提示し、子どもに気づかせる活動を取り入れた。
- 2年生の内容では、「順序がわかるように書く」「組み立てを考えて書く」とあるので、教科書の本文に色分けをして書くことの手立てにつなげていった。
- グループで見直すときに、ロイロノートの共有ノートを使い、「順序の言葉」「誤字の訂正」を交流しながら、清書を作り上げることができた。
- ロイロノートの操作をして国語の学習にいかすことができてきた。

課題

- 「誤字」を見つけてほしいのに、字のていねいさに目がいき、目的がブレてしまった。
- たくさん文章を書いてしまい、伝わりづらい説明文を書いている子もいた。
- ロイロノートの操作に時間を使う必要があった。
- 共有ノートを使う際に、グループの加筆を間違えて消してしまうなどの操作問題が起こった。



校内研修感想

○普段 ICT を使った授業をあまりやったことがなかったので、今日の研究授業を見せていただいて、授業の中にどのように取り入れていくのかをいろいろ考えることができました。説明文の動機づけとして、相手意識が大切だと改めて学び、子どもたちが学びたい、伝えたいと思える授業をできるよう、日々の授業を考えていきたいと思います。

○ロイロノートの活用については、教材や単元で合うものがないかと、手探りの状態です。共有ノートの扱いは難しいですが、1年生の頃からの積み重ねがあれば、今後はより上手に使いこなせるようになるんだと改めて感じました。

○タブレットにカラーシールが貼ってあり、指示を出した時に誰でも分かり易く、自分の色を見て、活動に取り組める方法がすぐに取り入れたいと思いました。低学年の頃からタブレットを使用する学習をしていると、タッチペンひとつとっても丁寧に扱う習慣がついてるようになってきました。

○同じ低学年部会で、ロイロノートを使った主体的・協働的な学習について考えて取り組めたことは、とても良い学びになったと思います。